

かお・人・interview

2022年10月13日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
佐賀河川事務所 所長

工藤勝次氏

KUDOH Katsuji

開所3年目を迎える佐賀河川事務所は、嘉瀬川ダムと佐賀導水路の管理、城原川ダム建設事業の促進を任っている。佐賀県は近年の極端な多雨少雨傾向で浸水被害、渇水調整が続いている状況だ。住民が安心して暮らせるように佐賀平野のインフラ整備に期待がかかる。また、城原川ダムは予備調査から半世紀。多くの人の生活が変わってくる事業に、どう向き合っているのか、工藤所長に伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

近年は、気候変動により水災害が頻発化・激甚化しています。ここ佐賀県においても、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合に発表される「大雨特別警報」が平成30年から4年連続で発表され、令和元年から3年連続で、広範囲にわたり浸水被害が発生しています。また対称的に、近年は少雨傾向も続いており、令和元年、令和3年、今年と関係機関からなる渇水調整連絡会を開催し、取水制限等の渇水調整を実施している状況です。佐賀平野にとって治水・利水のインフラ整備が重要な地域であることから、当事務所が進めています城原川ダム建設事業の早期完成と嘉瀬川ダムおよび佐賀導水路の管理の重要性が、今一度再認識しているところです。



▲巨勢川調整池：平常時



▲大雨時：令和3年8月14日

令和3年8月豪雨では、前線が九州付近に停滞し、8月11日から17日にかけて佐賀平野の広い範囲で長時間にわたり強い雨が継続。佐賀県域では総雨量1,000mmを超える雨が降り続き、佐賀導水路では、全8つの排水機場を累計で約1,223時間可動させ、約2,100万トン(福岡PayPayドーム：約12杯)を排水し、佐賀平野の内水被害軽減を図りました。

佐賀導水路と嘉瀬川ダムは、完成から10年以上治水・利水ともに大きな効果を発揮しているところです。今後は既存施設を最大限に活用する観点から治水・利



水の効果をさらに上げるための検討を進めてまいります。また、事前防災対策として新たな洪水被害をもたらさないためにも城原川ダムの早期完成に向けて、まずは、水没地区やその周辺の住民の方が安心して生活再建ができるよう住民に寄り添い丁寧な説明を行い、ダム事業に協力してよかったと思っただけのよう努めてまいります。

Q福岡県や佐賀との関りについて

今年度で勤続30年目を迎えます。そのうち福岡県内の事務所勤務が15年(九州地方整備局本局3回、筑後川河川事務所2回、水資源機構筑後川局出向1回)、佐賀県内の事務所勤務が2年(当事務所が筑後川河川事務所佐賀庁舎の時代に1回)ということで、今回の着任を含めて18年目の、福岡、佐賀の勤務となっています。

本局では、担当時代はダム管理、係長時代は水利権の技術審査、建設専門官・課長補佐時代は河川整備計画策定、平成29年九州北部豪雨の対応、朝倉市と東峰村の災害復旧事業の対応および河川事業の予算要求、執行に関わってきました。特に、平成29年の北部九州豪雨の対応としては、災害の直後、防災ヘリで最初に現地に向かったこともあり、その時の被害のすごさは今でも脳裏に焼き付いています。水と土砂が一緒になった災害ということで過去に例を見ない災害復旧事業となり災害前後の航空レーザ測量データをもとに災害検証と復旧工法の検討を実施し、毎週本省と協議を行っていました。その時は、きついとあった思いよりも早期の復旧のみを考え一心不乱に頑張りました。

筑後川河川事務所では、本省治水課直轄ダム係(現在:大規模構造技術係)に2年出向後の勤務で開発調査課開発調査係長ということで、小石原川ダム、寺内ダム、江川ダムの3ダム総合運用の検討、筑後川水系ダム群連携事業の計画検討、松原ダムの弾力的管理、筑後川水系に関連する水利権の技術審査等を行っていました。その後、大山ダム、小石原川ダムの事業進捗のため(独)水資源機構筑後川局に出向して国、県、利水者の調整に走り周り、大山ダムの事業計画変更、小石原川ダムの建設事業着手と頑張った思い出があり

ます。その後9年後に調査課長で戻ってきて、平成24年の九州北部豪雨に伴う災害復旧事業(矢部川、筑後川支川の花月川の災害)の最終年度ということで、災害復旧を完了させることと、矢部川水系河川整備方針、整備計画の変更等で奔走しました。

あと、1年目には筑後川左岸下流で堤防道路に溜まった雨水が堤防に浸透して堤防が決壊する災害もあり堤防調査委員会の立ち上げと原因究明、MMS(Mobile Mapping System)と言った新しい測量調査技術を用いて、筑後川全川の調査と危険個所の特定等も実施しました。

筑後川河川事務所佐賀庁舎では、開発調査第2課の専門官で着任し、城原川ダム建設に向けた調査検討、並びに嘉瀬川ダムの完成に向けた操作規則策定の最終調整等を実施していました。特に、本局河川環境課調整係長時代に国営筑後川下流土地改良事業(筑後川下流用水事業、国営嘉瀬川土地改良事業(川上頭首工)、国営筑後川下流土地改良事業(佐賀西部導水路))の本水利権の処分を行った関係もあり、佐賀の水の最終調整を実施しました。農業用水だけでなく、水道用水、工業用水等を含め関係者の調整に走り回りました。

Q当事務所の紹介

城原川ダム建設事業の促進、併せて佐賀平野の治水・利水等に寄与する嘉瀬川ダム、佐賀導水路を一体的かつ適切に管理することを目的に、令和2年4月1日に佐賀市内に国土交通省九州地方整備局佐賀河川事務所を新たに設置し3年目を迎えます。

組織は、事務所本所と嘉瀬川ダム管理支所を合わせ45人(事務官14人、技官24人、非常勤職員7人)です。少数精鋭の事務所ですが、佐賀の住民の方々があな



▲工藤所長を囲んでの集合写真

全で安心して生活できるよう、事務所一丸となって頑張っています。「風通しのよい職場」「何でも話せる雰囲気づくり」といった職員間のコミュニケーションをとることで「より良い段取り」「より良い結論」に結びつくということをモットーに職場環境づくりを心がけています。

また、一つの視点で物事を考えるのではなく、広い視野で仕事を考えるため、事務所をベースとした情報共有と学びの場として、「佐河(さが)・弘どう館」と称して勉強会を行っています。昔はよく「転勤先の事務所の風土・文化・歴史を勉強しなさい。」とよく言われていました。まあ、そこまでは個人の自由なので、まずは事務所で実施している事業についてはプロになってほしいと考えています。まずは、内部での学習会からスタートして、今後はOBさんなどの外部講師を迎え熟度を上げていければと考えています。

Q今年度の事業概要

令和4年度の事業予算(諸経費除)、河川総合開発事業費(城原川ダム):872百万円、堰堤維持費(佐賀導水路):755百万円、堰堤維持費(嘉瀬川ダム):427百万円、総合水系環境整備事業費(嘉瀬川ダム):90百万円となっています。

城原川ダムについては、用地補償基準の提示・妥結に向けた用地調査やダム本体関連および付替道路の調査・設計を実施します。佐賀導水路、嘉瀬川ダムについては、施設運用および管理施設の維持・管理および令和3年8月豪雨を含めた過去の効果検証並びに両施設のさらなる有効活用について検討を実施します。また、嘉瀬川ダムの環境整備については、ダム等の施設を活用した地域活性化などの取り組みの一環として、富士しゃくなげ湖(嘉瀬川ダム湖)の水辺空間の整備を実施しています。

Q地域との連携・協働について

城原川ダムについては、昭和46年の予備調査以降、50年以上が経過しており、特に水没地区やその周辺の住民の皆さまには長い間不安と心労をおかけしたことを本当に申し訳ないと思っております。令和2年度から用地調査、付替道路の現地調査に着手し、令和4年の3月にはダム上流の水没地区の住民の方々、今年5月にはダム下流の住民の方々に、ダム上流の水がたまる範囲、付替県道、並びにダム工事に必要な原石山、土捨て場等をご説明させていただき、おおむね了解を得て、現在用地補償基準提示・妥結に向け本格的な用地調査及び地元の方々の生活再建に向けた聞き取り調査等を行っています。今後も水没地区やその周辺の住民の方々の生活再建を最優先に考え、地域に寄り添い丁寧な説明に努めてまいります。



▲城原川ダム地元説明会

嘉瀬川ダムについては、完成から10年の節目、嘉瀬川ダム利活用を本格始動するタイミングとなっています。近年、嘉瀬川ダムへの観客も年々増加しています。今年5月末には佐賀市とともに整備を行った水上競技場が完成し、令和6年度には佐賀県で開催される「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」のポート

今年度から本格的に城原川ダムの用地調査に入ることができました。一日でも早く補償基準を提示・妥結できればと考えています。まずは、しっかり地元の声に耳を傾けて、事業を進めていきたい。

▲城原川ダム予定地

競技の会場として予定されています。また、嘉瀬川ダム水源地域ビジョンの方針である「水恵無限」水がもたらす恵みをいかしたふるさとづくりをさらに推進していくための原動力にもつながるよう、今後とも地域の方々と連携し、嘉瀬川ダム、富士しゃくなげ湖を活用した観光、地域活性化に取り組んでいきます。



▲カヌー競技



▲嘉瀬川ダム3Dバーチャルツアー

http://www.qsr.mlit.go.jp/saga/office/dam_vtour.html

令和4年度より嘉瀬川ダムカードもリニューアルしました。また、現地に行かずとも、お手元のパソコン等でダム見学できる嘉瀬川ダム3Dバーチャルツアーも事務所ホームページからご覧できるようになりました。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

地域の建設業は、近年の気候変動による水災害の頻発化・激甚化する中で、地域の守り手としての役割が大きくなってきている。また、人口減少社会を迎え、担い手の確保といった観点からの働き方改革、生産性の向上も極めて重要な課題となっている。そのようなことから土木技術の魅力を含めて技術の伝承・技術力の向上がますます重要となっています。

当事務所においても、災害発生時における迅速な被害状況の把握や円滑かつ的確な災害対策を図るために、建設会社等(土木工事、機械設備、電気通信設備、コンサルタント等)の協力を得るため、延べ50社との災害時等応急対応に関する基本協定を結ばせていただき、地元建設業ならではの地域に根差した災害時の対応が可能となっていると感謝しております。

また、平成28年度から進めてきているICTの活用、今

年度から「挑戦の年」として位置付けているインフラDXを進めるとともに、若い世代が建設業に入ってくるよう、城原川ダム、嘉瀬川ダム、佐賀導水路などの土木施設の役割や土木技術の魅力を幅広く発信していきたいと考えています。

Q 趣味や健康法について

最近の健康法(趣味)は、昨年からはじめた登山、キャンプです。昨年度まで東京勤務だったこともあり、コロナの感染防止と言いつつ、近隣の高尾山を皮切りに、筑波山、北アルプス(白馬岳、槍ヶ岳、奥穂高)、日本最高峰の富士山等、約30山登りました。そのおかげかわかりませんが、ダイエットにつながり人間ドックの数値も改善に向かっています。九州に戻ってきてからも天気の良い週末は登っています。6月末で9山制覇です。標高は関東の山には負けますが、山からの景色、壮大さは負けていません。



▲宝満山の山頂から眺める景色

登山以外にもスカッシュを妻と友人とで月1回程度やっていて、単身赴任が3年間続いたので妻とのコミュニケーションづくりとダイエットと健康管理につながればと思っています。あとは、ロードバイクと家庭菜園といったところですかね。今後も「頑張り過ぎず、諦めず」をモットーに多趣味で健康管理に頑張っていきたいと思います。

プロフィール



出身地：宮崎県
生年月日：昭和43年6月28日(54歳)
H5年4月 建設省入省
H23年4月 筑後川河川事務所(佐賀庁舎) 開発調査第二課専門官
H25年4月 八代河川国道事務所 河川環境課長
H27年4月 筑後川河川事務所 調査課長

H29年4月 河川部河川計画課 建設専門官
H30年4月 河川部河川計画課 課長補佐
R1年4月 川内川河川事務所 副所長
R2年4月 国土交通省 国土政策局広域地方政策課調整室 課長補佐
R4年4月 現職